

## 地域特集

# 横浜港南の 生い立ち

1969年10月(昭和44年)に当時の南区から分区して誕生した「港南区」も来年で40年を迎えようとしています。激しい開発・都市化の波に洗われながら大きく変貌を遂げ、現在は京急上大岡駅を中心に一大商業地に発展をし、日々その姿を変えつつあります。今回は、「横浜港南の地」にスポットをあて、その生い立ちにふれてみました。

### 武蔵国と相模国の国境と分水嶺

かつては現在の港南区の東側地域(上大岡・最戸・大久保・港南・笹下・日野・日野町・港南台・日野南)は武蔵国久良岐郡に、西側地域(野庭町・丸山台・上永谷町・日限山・上永谷・下永谷・下永谷町・東永谷・芹が谷・東芹が谷)は相模国鎌倉郡に属していました。また、港南区の中央を走る武蔵・相模の国境は、「新編武蔵風土記稿」にも「水流れる境」と記された分水嶺(※)で、武蔵側に降った雨水は大岡川水系(日野・大岡川)となって東京湾へ流れ、相模側に降った雨水は、柏尾川水系(馬洗・平戸水谷川)となって相模湾に注ぎます。この分水界は武相両地域の気

候風土にも違いを生み、その地域に暮らす人々の信仰や文化、生活習慣にも微妙な影響を与えてきたと言われています。

※分水嶺：分水界となっている山の峰。一般には、雨水は分かれて異なる海に注ぐ。



港南区を縦断する武相国境線



1959年(昭和34年)



2008年(現在)

芹が谷の武相国境標示の道標  
芹が谷一丁目15

### 中世から近世の港南

#### 〈中世〉

鎌倉幕府が誕生すると、当然ながら政治の中心となった鎌倉に通じる道が整備されることになり、「いざ鎌倉!」という時に備えていくつもの「かまくら道」が整備されました。

この地域には、当時幹線道路であった「かまくら下の道」や「金沢道」をはじめとする鎌倉古道が走り、鎌倉に向かう人々が必ず通らなければならない主要な道でした。

#### ○かまくら下の道

下総や上総国から、浅草～鶴見～保土ヶ谷～弘明寺～餅井坂～大久保～馬洗橋をとおり、「かまくら中の道」と合流して鎌倉へ入る道。なお、朝比奈切通しができた後は、井土ヶ谷から金沢へ向かい、朝比奈切通しを通り、鎌倉へ入るコースが主に利用されるようになりました。



かまくら下の道 餅井坂  
港南区最戸一丁目と南区別所二丁目  
の区界。

#### ○かまくら中の道

奥州路から二子の渡しを経て鶴見川・鶴ヶ峰を通り、名瀬・小菅ヶ谷を経て馳川(いたちがわ)を渡り、鎌倉に入る道。

#### ○かまくら上の道

武蔵府中から関戸を通り、藤沢から鎌倉へ入る道。

#### ○金沢道

保土ヶ谷を拠点とし、南太田・千保を経て、区内の松本・関・雑色を通り、磯子区の田中・栗木を経て金沢に通じる道。

#### 〈近世〉

江戸時代、この地域は米作農業、養蚕、等で幕府の年貢賦課・幕藩体制の下、暮らしを立てていました。「江戸」に近く、江戸の広域経済や文化圏に属していました。

相模国永野地域は東海道に近く、戸塚宿の助郷にも加わっていました。更に、時代が進んで横浜が開港されると久良岐郡は横浜の経済圏の恩恵を受け、シルク捺染等輸出産業にも貢献をし、その後相模国鎌倉郡は「鎌倉街道」をとおり、文明開化の横浜経済圏へ次第にとりこまれ、今日の港南区の骨格が生まれたといわれています。

参考資料：伊藤 武 著「港南の歴史と文化」